

平成27年9月

河瀬真也 学位論文審査要旨

主 査 黒 沢 洋 一
副主査 前 垣 義 弘
同 中 島 健 二

主論文

Plasma brain natriuretic peptide is a marker of prognostic functional outcome in non-cardioembolic infarction

(血漿脳性ナトリウム利尿ペプチドは非心原性脳梗塞における機能予後を予測する指標となる)

(著者：河瀬真也、古和久典、周藤豊、福田弘毅、楠見公義、中安弘幸、中島健二)

平成27年 Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 掲載予定

参考論文

1. Use of ramelteon for the treatment of secondary REM sleep behavior disorder

(二次性レム期睡眠行動異常症の治療に対するラメルテオンの使用)

(著者：野村哲志、河瀬真也、渡邊保裕、中島健二)

平成25年 INTERNAL MEDICINE 52巻 2123頁～2126頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、脳梗塞多施設共同研究データベースを用いて、心原性脳塞栓（cardioembolic infarction：CEI）、非心原性脳梗塞（non-cardioembolic infarction：non-CEI）における血漿脳性ナトリウム利尿ペプチド（brain natriuretic peptide：BNP）について検討したものである。その結果、CEI、non-CEIともに入院・退院時機能予後不良群は良好群よりも有意にBNPが高値であった。本論文は、BNPが脳梗塞機能予後を予測する指標となりうること、CEIとnon-CEIにおけるBNPと関連する因子の差異と特徴を明らかにしており、明らかに学術水準を高めたものと認める。